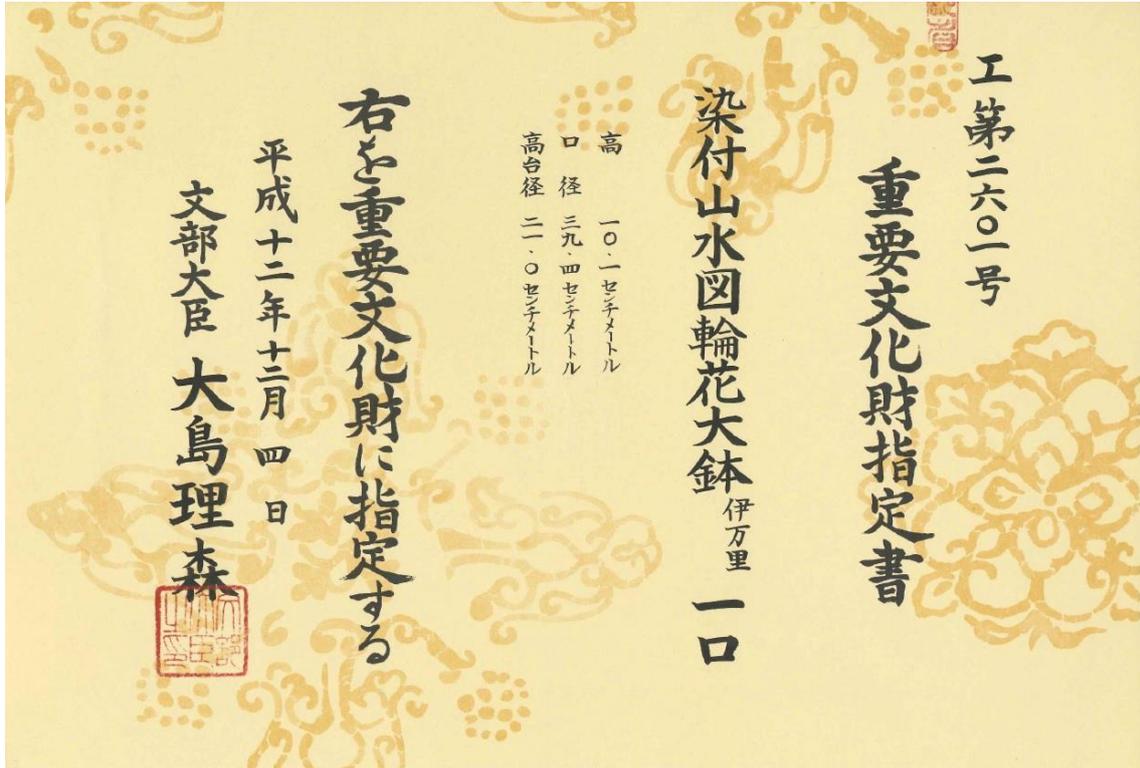


そめつけさんすいもんりん か おおざら
染付山水文輪花大皿

肥前 有田窯

1640～1650年代

今泉吉郎氏寄贈



※指定名称と当館で使用している作品名称は異なりますが、同一の作品を指しています

作品介绍

染付の大皿。高台際から口縁端部にかけて内外側面に鋭い鑄しのぎが入る珍しい器形をしている。1610年代頃に有田で創始期の磁器（初期伊万里様式）が始まったが、1640年代には技術革新を遂げ、より洗練された製品が作られるようになる。この作品は技術革新期の代表的な作品である。文様として見込に山水文を描き、建物、柳、船、魚、空には月と鳥の列をバランスよく配置する。見込周縁部と裏面には花唐草文の帯を入れ、広くとった高台内に磁器質のハリ支え痕が2カ所残っている。有田町所在の山辺田窯跡（国史跡）からこの作品と同様な鑄を施した陶片が発見されており、高台内の圈線や見込に段をつけるなどの特徴と合せて同窯の製品と推定されている。

今泉吉郎いまいずみきちろう氏旧蔵。昭和61年（1986年）に今泉吉郎氏から傘寿さんじゅの記念に当館へ寄贈。

平成10年（1998年）5月11日付で佐賀県重要文化財に指定される。

平成12年（2000年）12月4日付で重要文化財に指定される。

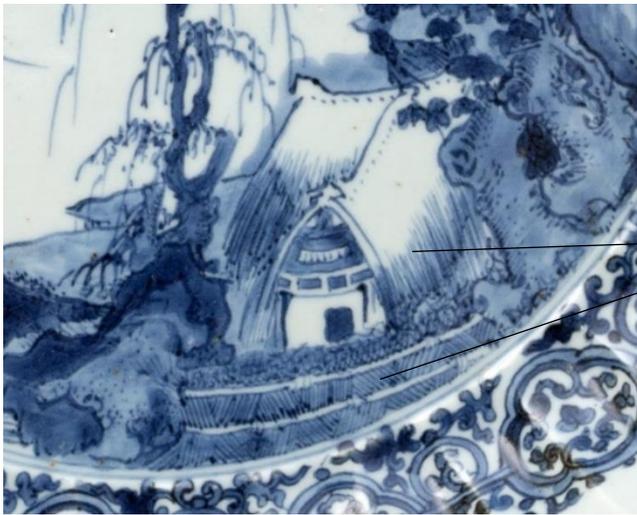
解説シート



見込みを
浅く一段
くぼませ
ている。



口縁内外面に鏝を作り
出す珍しい器形。



細く繊細な線書きによって、
建物や垣根などを描いてい
る。

ハリ支え痕。磁器質のハリ
を使用している。

ハリ支えの導入
により、広く作ら
れるようになった
高台。



裏面